

竿を絞っているのは、本誌「竹は活きている」の細谷徹さん。へら竿「龍」と「竹道」の作者でもある。さすがに竿を絞る姿は絵になり申し分ない。無理して竿を上げず、魚は自然に寄せられてきた。



本誌が誇る不世出の万能神が、野釣りトーナメントに贈る必釣エサ合わせ術!

特集Ⅰ エサ合わせ大全スペシャル

4 小池忠教 深宙両ダンゴin豊英湖

特別企画 ベストフィールド筑波白水湖で、ペレ宙魔神がついに明かす、驚愕ペレ宙理論…!!

43 中島上 ペレ宙の真実 前編

新企画 竹竿ファン必見! 紀州の伝統を守り抜く人たち…。

120 竹とともに生きる。第1回 「山彦」作者 山上薫広

新企画 ついに…、スーパーチャンプ、降臨!! 彼は何を考え、何を実行しているのか。

178 岡田清【Deep Side Angle】

特集Ⅱ 夏も面白い巨べらフィールド完全解剖!

184 亀山湖スーパーガイド PARTⅡ

18 名手・石井旭舟がいく、へら鮒出合い旅… へらぶな浪漫街道
《第九回》秋田県・八郎湯、金山湖

24 マルキューフィールドデスター発足会

野の風景

26 北浦最上流と巴川(茨城県銚田市)

27 城沼(群馬県館林市)

28 大型狙いの薬釣宣言! 山内研作&生井澤 聡
《第九回》平沢ダム(千葉県大多喜町)

34 棚網 久の対決mode 1, 2, 3!
《Battle.30》チャレンジャー:宮田将弘VSTーナメント:棚網 久
ファイナルステージ!! ミスターGがスピードスターの前に立ちはだかる!

40 頑固一徹! 自分の釣りを貫き通す男
《今月の釣り人》一枚の釣りを貫き通す人 石江良治さん

118 竹は活きている
⑨鎌倉・報国寺にて

124 杉山達也のSPLASH BEATⅡ
《Vol.9》狭山HC夏季底釣り大会に挑む!!

130 田辺哲男の「それってどーゆーことよ!」
《Vol.9》ロング杉山俊弘の【フィンガーマスターペレ宙】!! 隼人大池

134 熱血釣り女・吉川ひとみがい!「へらってヤバイわっ!!」
《第15回》宮沢湖の棧橋で修行修行っ!!
GUEST:石井旭舟さん

138 列島縦断 旅するカメラ
《千葉県36》睦沢町付近 中將のセキほか

142 西日本川釣り紀行 北川穂積
《第九回》千種川(兵庫県)

190 釣りクラブ見参!
《第48回》へら水幹会 椎の木湖(埼玉県)

192 フィッシングレディ
《今月のレディ》岡本祥枝さん 柳生FP(群馬県)

※「旅するカメラ 取材番外 思い出話」は誌面の都合により休ませていただきます。

50 電話で突撃!! 関東近辺釣り場情報

★エリアレポート

52 中山陥落2号池(福岡県) 河口正伸

54 北陸の夏の釣り場(福井・石川・富山県) 山本一郎

55 隠れ谷池(和歌山県) 前田誠志

56 佐屋川寄せ場(愛知県) 後藤 誠

58 芝学園釣り研究部 精進湖合宿

62 全国主要釣り場 釣り舟店一覧表

66 あらいしのぶの始めてみようよ、へら鮒釣り♡
《第5回》目的に合ったへらウキの選び方は???

68 ガッツ小林が攻めまくる 若さとファイトの激釣記
《第14回》加須吉沼(埼玉県加須市)

72 人間カーナビ稲毛利夫の実釣!野べら釣り歩き
《第9回》薬師寺池(群馬県大胡町)ほか

75 江成公隆のトーナメント、復活への道。
《Vol.15》～【宙釣り両ダンゴ】復活への道!～ 伊藤洋一の常識① in 精進湖

82 GOZYUKKAMI TREASURE HUNTER アマヤン 天野正由
《その9》あっちこっちと歩いてやるが…(高滝湖・相模川・西湖)

86 水辺のプラネタリウム 吉本亜土
《今月の星空》「整形外科2」

91 元気が出るへら鮒 西田美明
《第9回》「がんばれ阪神タイガース」の巻

94 本誌イケイケ編集長が斬る! 業界のタブーに迫る!!
《第7回》【どうしたらインストラクターになれるのか?】続編
御大・石井旭舟に直撃!②

98 最狂へら戦士養成所“鮒の穴” 高橋謙司
《第八話》今月の指令:「恐怖のカミツキガメから、釣り人を守れ!!」

102 野田幸手園新聞

104 ワクワク管理釣り場情報

107 トーナメント速報 NHCへらぶなトーナメント

108 小売店情報

146 好きです! へら鮒釣り! 松戸 健
《人物往来47》福田二郎さん

149 竹、合成竿を使用した 未開の釣り場 釣行記
《その17》坂下ダム(福島県大熊町)＆館山溜め池

156 第4回 女性のための楽しい釣りスクール 狭山HC

★へら鮒BOX

161 里ちゃんの新米編集長雑誌

162 情報地獄ミミ

164 ボイス

169 わが輩はへら鮒である

170 新人モロちゃん奮闘記

171 プレゼント発表

172 釣果予想クイズ

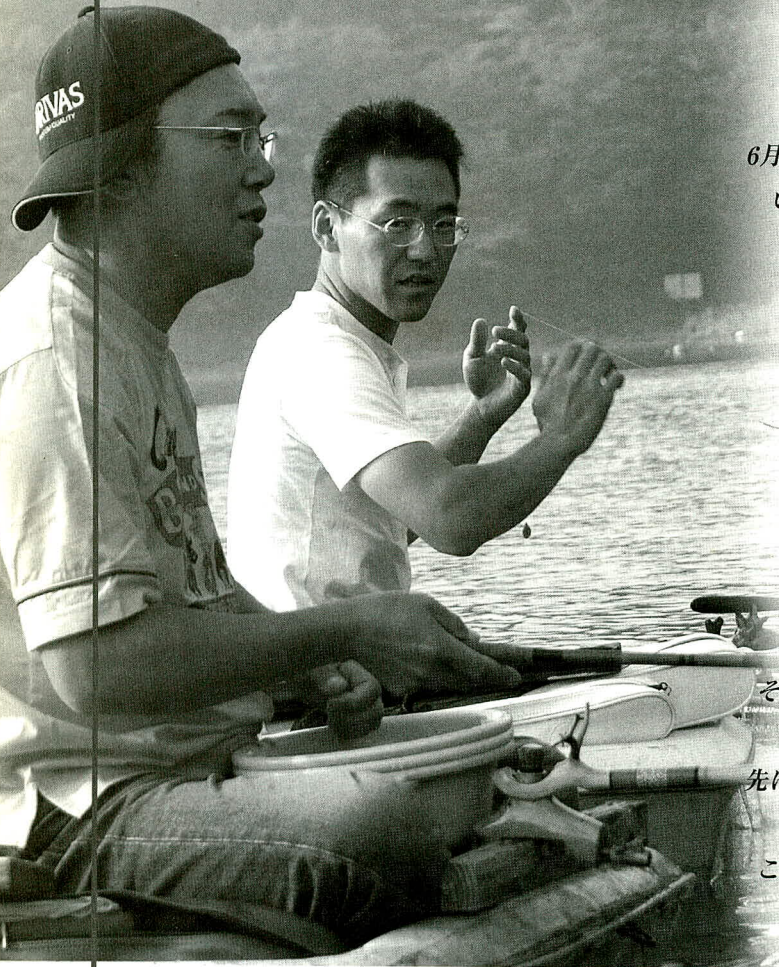
175 広告索引

176 編集後記

この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がるとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
業界初、Web運動企画！ (URL) <http://hesar.yokohamatsurumi.net>



〈Vol.15〉

～【宙釣り両ダンゴ】復活への道！～

伊藤洋一の常識①

in 精進湖

『伊藤洋一と江成の初コラボ』は、
いったいどんな展開を見せるのか？

6月27日、精進湖、ふじみ荘。挨拶・お詫び(?)もそこそこに、
いきなり早朝の湖上へ漕ぎ出した二人。(里ちゃんも後を追う♡)

嫌でも期待は高まったが…。

藤蔵ロープに舟付けを終えた後、里の期待とは裏腹に、

二人のトークは思い出話から始まった(!?)。

意外なことに、昔、この二人には実は接点があったのだ。

知らなかったぜ、両アニキ！

梅雨の合間の晴天。最高のロケ。

江成のしつこいツッコミにも、

穏やかな口調で丁寧に答えていく大人の伊藤アニキ…。

壮大な伊藤洋一の理論と江成のツッコミが、

富士山をバックに冴え渡る！

そして、無事に届いた(笑)バカ長い原稿を読み、里は驚いた。

これは…

先に言っときます。ページの都合上、今月はイントロだけです♡

しかし、ぜひじっくりと読んでみて欲しい。

これから先展開される、超弩級【伊藤洋一理論】へのヒントが、

随所に散りばめられているはずだから…！

by 里ちゃん

ジャブ

伊…記事、読んでますよ(笑)。
江…あっ、読んでいたいてますか。ありがと
うございます！
伊…ところで7月号の事なんだけど、オレらの
使ってるウキってそんなに小さいかな？
江…(ギクッ)いや、今日は(18尺いっぱい)
そんなでもないような気がしますね…。
伊…でしょ？ いくら追わせるためって言っ
ても、道糸のテンションは確保しなくちゃなん
いんだから、基本的にはそのサイズの使
いますよ(笑)。
江…実際、大きい小さいって言ったって、ど
こにも基準なんてないんですよ。人によっ
てはグラム数や板オモリの厚さと大きさで表記して
いるんですけど、基準はあくまでもその人の
釣りなんで。
伊…そうなんだよ。「毎回ウキが立たない」な
んて事がなければそれでいいんじゃない？ オ
レとしては「毎回スムーズに(?) ナジんじ
ゃう」方がダメダメだね。
江…そこなんですよねえ。おそらく伊藤さん
と僕との決定的な違いは、萩野君と知り合っ
てからは、僕なりにかなり考えるようにはなっ
たんですけどね。今日は自分のセッティングの基
準と伊藤さんの基準との隙間を完全に埋めて帰
りたいと思ってます(笑)。
伊…そうなんだ？(笑) でも江成君の仕掛け
を見ても、オレのオモリの量とたいして変わら
ないじゃない？ ほら。
江…いやあそれが、僕的にはもうこれで十分小
さい(軽い)って感覚なんですよ(笑)。
伊…ええっ？ オレ的にはそれ以上オモリをし
よっちゃったらマズいなあ。
江…そう思います。だから最近では当たり前の
チョイスです。なんて言うんでしょうか、自分
の釣りというものを総括するようになった頃の
基準と比べてって事になるんでしょうかねえ

伊：うーん、そんなもんかなあ。でもその時代の流行りの釣り方ってのがあつたわけだから、たまたま覚えた時代のセッティングをいつまでも基準にし続けちゃうってのはどうかあつて思うけどなあ(笑)。

江：全くその通りですね(笑)。だから今言つたように、今日のこのウキは、「最近では当たり前の」チョイスではあるんですよ。でもイメージしっくりこない。それは自信を持って使えていないからなんだと思うんです。最近ではこういう長竿の深宙をやる時は、いつも本で読んだ伊藤さんの釣りをイメージしてやってるんですけど、まともに釣れた試しがないんです。結局マネなんで、何がズれているのか分からないんですよ(笑)。セッティングなのか、エサなのか、リズムなのか。って。もしかすると自作のウキが終わってたりして。なんて考えるともうダメですね。そこから先へは進めませんよ(笑)。

伊：うーん、それは誌面で能書き言う立場としては耳痛いね(笑)。やっぱり読んだだけで理解してもらえないのかどうかという、現実はかなり厳しいんだろうなあ。

江：そういう読者の方って多いと思いますよ。ですから、今日は僕は読者代表って事で、ひとつよろしく願いますよ(笑)。

伊：分かりました(笑)。

ボディサイズ?

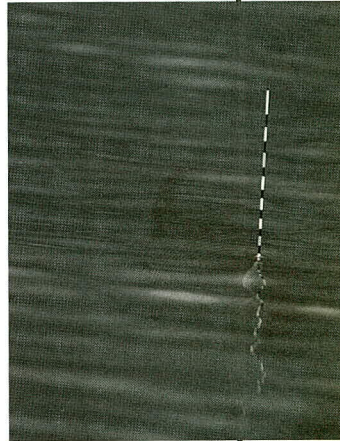
江：今日使ってるウキは、何ですか？

伊：「忠相・ツアースベックPB」の12番です。

江：サイズはいくつですか？

伊：セルの細パイプトップ13cm、一本取り羽根ボディ12・5cm、竹足5cmかな。

江：これは、羽根10cmで、17・5cmですね。僕としてはこの数字の方がしっくりきますね。17・5cmかあ。そんなに違和感はないなあ。で、そのオモリ量ってことは、けっこう細身で



すね？

伊：そうだね、もともと底釣り用のウキだから。最近は何でも横文字だけ(笑)。「PB」って「パワーボトム」って意味。盛期の底釣り用、っていうイメージなのかな。だからそんなに太いウキではないよ。でも何で？ オモリ量を考えたら、やっぱり羽根部分での号数表示の方が自然じゃないの？

江：うーん、僕にとつてウキってオモリの量だけじゃないんですよ。水深に応じた大きさ(長さ)っていうイメージがもの凄く強いんです。イメージより大きい分には構わないんですが、小さい場合に「ウキのすわり」が良くない気がするんですよ。科学的(?)な裏をとってはいないんですけど(笑)。あ、トップの長さは気にしないでですよ。あくまでも水中に常時浸かっている部分の話です。そこで、ボディ径や足の長さを少しづつ変えたウキを何種類か作っただけです。極端な足長は浅ダナ用以外では作っていませんで、基本的にはボディ径が要ですね。

伊：最近作ってないの？
江：いやあ時間がなくてここ何年も作ってないですねえ…。修理待ちが溜まる一方です(笑)。
伊：修理くらいしなよ(笑)。



江：はい(笑)。今日使っているウキは、5.5mm径の羽根の一本取りに、短めのセルトップの細を組み合わせたもので、実は伊藤さんと萩野君の釣りをイメージして作ったウキなんです。何年も前に(笑)。最近では、大エサで攻めるような深宙はあまり決まらないような気がするので、6mmとか6.5mm径のウキはチョイスしません。エサを引く張り降ろす必要がありませんからね。でもそういう釣りが僕の基準として一度確立されてしまったので、今日のウキは僕的には「軽めのウキ」っていう部類なんです。

伊：なるほどね。で、江成君的には今日の釣りには「その長さ」ってわけだ。でもちよつと長くないかい？
江：それが(笑)、今日は18尺いっぱいってことなんで、ボディ10cmで18cm位が僕のイメージだったんですけど、ウキケースを見たらちよつと18cmのウキのトップが折れてしまつてまして…。完全に忘れてましたね(笑)。それで仕方なく一つ上の19・5cmでやつをチョイスしたってわけなんです。足が6cm近くありますから、羽根部分では13・5cmですね。だからつまり、伊藤さんとは羽根1cmの差ですね。その割にはオモリの量が変わらないんで、僕の方が重いってことになりますか。塗装が厚いのか？ マスいですね(笑)。まあ、フリの作者のウキと比べるのも何ですが(笑)。

伊：でもさっきから見ると、オシの理想に近い「動き」は出てるよ。浮力の差は「素材」とか「絞り」とかそういうもんじゃないのかな？ 問題ないと思うけどな。
江：ありがとうございます。でもそんなに持ち上げてくれなくともいいですよ(笑)。

それぞれのルール。

伊：でも、ホントに小ウキがいい時なんかはどうしてるの？

江：チャカチョーチンなんかは、割り切つてホントに小さいウキを使いますね(笑)。これはこういう釣りなんだって。そんなにサワリを追いかけると、ウキが立った瞬間に持つていつちやったり。でも今年の冬、チャカウキで底釣りをやる機会がありまして、意外に前触れは出るもんだなあって感じたんです。ですから「ウキのすわり」なんてのは僕の勝手な思い込みなのかあとも思つてます。それでもウキの大きさに対するこだわりは消えませんが…。もう「好み」なんですよ。

伊：何なんだろうねえ…。じゃあ江成君は基本的に、オモリ負荷を小さくしたい時はウキの細さに求めるって事なんだね？ でもウドンウキみたいな次元の細さまでいっちゃう訳じゃないんですよ？
江：いえ、それがいっちゃうんですよ(笑)。浅ダナのウキは足も伸ばすんですけど、所属するクラブのウキ規定があるので、足の長さだけでは限界があるんですよ。そこでその先は、細さに求めていくって事になるんですよ。
伊：おー！ そうだったね。たしか足の長さも決まってるんだよね？

江：えーと、何年も休会中なんで今は分かりませんが、1メートル規定の池では「ボディ10cm」で12cm以上、「足」は4cm以内で決まっています。その昔は「ボディ10cm」で15cmでした。

伊：15cm!? そりゃきついなあ。
江：以前はハリス35cm以内っていう決まりもあつたんですよ。ですから「追わせる」っていう要素はかなり限られてくるわけですよ。もともとキワドイ釣りを規制するためのルールなんで、追わせやダメなんですよ(笑)。冷たい視線を感じながら、3mm径のカヤウキと

か使うんですけど(笑)、それでも、受けも何もいままナジミ切っちゃいますね。
伊：ウキの「動き」って、オモリ負荷だけじゃ語れないんだよね。肩の張り具合や素材に因るところも大きいんだよ。

江：そんなんですよね。細さに求めるのには限界があるのは承知してます。3mm径のカヤウキだと、かなりオモリは減らせるんですが、トップの付け根とボディとの境目に段差がほとんどないんです(笑)。ナジミ際に弱い気配を感じても、スーッと入っていつちゃうんですね。「アタリ」はなんとか出ますけど、メリハリがない(笑)。

伊：でも規定があるから仕方ない、と(笑)。江：それでも楽しかったですよ(笑)。自分にはとても勉強になったと思います。本を見てもそんなセッティングで釣ってる人は誰もいないので、紹介されてるエサのブレンドも通用するわけではないんですけど(笑)。ちなみにセッティングのいわゆる「距離感」のコントロールっていうのは、35cmのハリスをどう使い切るかっていうところから始まったんです。激シブで、段差を大きく取りたいけれども35cmしかない(笑)。そこでまず、上ハリスを2〜3cmまで詰める事を思いました。次は拡散範囲のコントロールですね。ガチガチにシメた小さいバラケになるのは必然でした。もちろんこのセッティングとエサで、タナまでへらが追ってこれなかったり、寄りが保てなかったりするようであればお手上げですが(笑)。あ！僕のウキのサイズへの異常なこだわり(笑)。ってコレですね、きつと。規定がある時とない時とで、ウキの選択基準に違いがあると面倒臭いんで、全てを一元化して捉えたい。これが原点でしょうね。例会に出席しなくなった僕にとつて今や関係のない規定ではあるんですが(笑)。
伊：それだ！大竹君や江成君達が10年前にやっていた釣りがなんとなく分かってきたよ(笑)。
江：そうですね？

伊：うん、オレね、すつと気になってたんだよ。10年前っていうと、「ナジませる」っていう事がとにかく大事だって説かれていた時代だった

でしよう？とにかくドブプリ入れる、と。正直言って、当時訳わかんなかったんだよ(笑)。オレ的には、ナジミきった後っていうのは、ウキの動きとしては「死んでる」わけ。だからみんな、どういふふうにならざるを得ないんだよ。うって不思議だね。でも江成君達は、そういう釣りで釣ってくる(笑)。これは何かあるぞ？って感じてたんだけど、自分の釣りの根本を否定するわけにはいかないしね(笑)。でも好きでナジませていたわけでもなさそうなので、ちよつと安心したよ。

江：確かにほつともナジんじやうルールやセッティングだったかもしれませんが、ドブプリ入れるのを良しとしていた訳じゃないんですよ(笑)。上層でのサワリから運動しての一発取りなんかも好きでしたし、持たないエサから始めるいわゆる「上からのエサ合わせ」だつてやっていた時期もあります。それでも決定的に伊藤さん達と違ったのは、アタリを取る位置なんですよ。僕らはどんなに早くてもエサの目方がかかっているアタリ、すなわちエサ落ち目盛を過ぎてからのアタリを取っていくようにしていたわけですよ。「速攻の中にあつても、押さえるところは押さえろ」と、先輩方から教わってきたしね。ところが、伊藤さん達の釣りは、ほとんどナジませないじゃないですか？エサの目方がほとんどかかっている状態釣ってしまう。それこそ訳わかんなかったですよ(笑)。あの高い位置でアタらずに、そのままナジんだとしたら果たしてどのくらいのナジミ幅が出るエサなんだろう？とか、どうやってエサの方向性を見ているんだろう？って不思議で、気になって仕方がなかったんです。タミング的に紙一重の釣りだつて事は僕でも分かりましたから、あそこまでイレバクを続けられるってことは、テトラメなイケイケではないとはもちろん感じてはいましたけど。
伊：お互い様だったんだね(笑)。

「アタリで釣る」釣りと「サワリで釣る」釣り。

江：「ナジミきった後っていうのは、ウキの動きとしては「死んでる」っていうのはどういう事ですか？ なんだか今日のキモが隠れていそうなのがしますよ」

伊：ナジミきつてしつかりエサの目方がかかった状態って言うのは、ナジミ際に勝負をつけたオレから言わせれば「持ち過ぎ」な状態ではないわけ。ナジませてる人にとつても、それは同じ事だと思っただよ。」「持ち過ぎ」ってカラツンの元凶じゃないの？
江：そうですね。

伊：え？ そうですねって…それでいいの？じゃあ、そこで出たカラツンってのはどうやって判断するの？ オレ、分かんないんだよ。江：硬過ぎなのかネバリ過ぎなのかって事ですよ。ね？
伊：そうそう！

江：僕らの使ってたエサっておそらく伊藤さんのエサよりは遥かに硬かったでしょうから(笑)、当時もし僕らのエサを伊藤さんが触ったとしたら、おそらく硬過ぎるためのカラツンと判断するでしょうね。で、手を打つ、と(笑)。でも当時の僕らはあんまり硬過ぎるのは考えなかつたですね。エサの大きさは小さくつてことは考えましたけど、もともと小エサです。基本的にはネバリ過ぎを疑って、水で戻して硬さを増す方が多かつたです。ポソへのタッチの置き換えですね。

伊：それで、ナジミ幅は変わらない？
江：変わらないですね。持ち具合に変化はそうないと思います。イメージ的には、芯の大きさをほんの少し小さくしてやっただけです。
伊：ふむふむ。でもまだ持ち過ぎのままだよ？

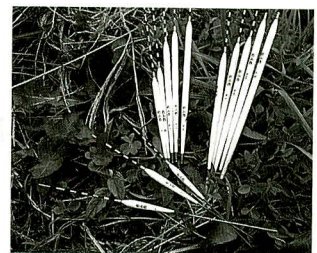
江：当時の僕らのイメージだと、食う直前までは持ち過ぎのままでもいいんですよ(笑)。考

競技派からのんびり派まで、すべての釣り人に使って欲しい…

へら浮子 杉山作

浅ダナスタイル
【パートI・パートII・ワイド・ムク】
(各1本4,500円)

フリースタイル
深宙スタイル
(各1本5,000円)



取り扱い店〈五十音順〉

埼玉・越谷 かわせみ (☎048-969-5067) 茨城・下妻 こやの釣具 (☎0296-44-1619) 東京・渋谷 サンスイ川釣り館 (☎03-3499-5025)
埼玉・入間 三水堂つり具店 (☎042-964-2093) 栃木・益子 フィッシングハウスほその (☎0285-72-2215) 神奈川・川崎 鮎仙人 (☎044-287-7470)
東京・吉祥寺 丸勝 (☎0422-22-8923) 東京・青梅 吉川釣具店 (☎0428-22-2467)

え方は固形チックなんです。ノーバラケに近い方が、へらはより近くまで接近してくるっていう発想なんです。より強烈なカラツンが出るのも固形に近い方だと。僕は「ぶつかりで食わせる」なんて表現してました(笑)。いつもってわけじゃないんですけどね。ハリスカツツケなんかだとかなりアマイエサで、それこそウキが立った瞬間からの一発取りもしましたし。で、固形のままでは延々とカラツンをくらっっちゃうんで、へらが口に入れた瞬間のエサの崩れ具合っていうイメージを大事にしてたんです(笑)。「ポロツ」っていう感じですよ(笑)。「食い頃」にしてタナに届けるっていう伊藤さん達とは、まるつきり考え方が違うっていうか逆ですよ(笑)。僕らの「エサが持たない」と言う場合には、端から見れば十分に持ってる状態の場合もあるんですけどもアタリが「弱い」んで、一段とシメちゃう、と(笑)。かなり強引で、一般的ではない「ナジませ釣り」だったかもしません。

伊：うーん、とにかく待つしかないような激シブの時にやらない事もない方法論だけども…。普通はさ、エサをいじらないんだったらアタリを何回か送るっていうのがセオリーじゃない？これはオレらにとってももちろん重要なテクニクとか方法論ではあるんだけどね。管理釣り場なんかだと、オレのリズムとタイミングでは、さすがにへらを抑え切れないケースはあるんで、ナジませ「気味」の釣りだつてやる事はあるんだから…。そこかあ、江成君達はそういう釣りだったのかあ…。でもそれってもの凄く疲れる釣りだよ(笑)。

江：そうですね(笑)。集中力は要りますね。まあでも集中力はどんな釣り方でも要ると思いますけど。あと、アタリの強弱を追う釣りになるんでハリスの張りには気を遣いましたね。みんな呆れるんですが、渋いのに一段と短いハリスにする事があるのはそのためなんです。

伊：江成君達のアワセがキツイ理由がよく分かりました。やっぱり「ハコ師」って感じだよ(笑)。当時、仲間内でキツイアワセをするとか、「江成アワセ」とか「大竹アワセ」とか

てよく冗談言ってたんだよね(笑)。

江：それはヒドいっ(笑)。

伊：でも江成君達のやってた釣りは、オレに言わせればやっぱり「アタリで釣る釣り」なんだなあ…。いわゆる「ナジませ釣り」と根本的には同じだ。だって結局エサの方向性って、サワリで判断できないわけじゃないか？ 江成君達みたいにその釣りをやり込んでいないと、とてもじゃないけど食わせられないと思うな。一般的にはカラツンでしかないって事だよ。オレにとってはアタリの「大きさと強弱」は、サワリの「結果」でしかないんだ。そして、その「美味いサワリ」が一番やすいのが、ハリスが張ってなくて極めて自然度の高い時、いわゆる「ナジミ際」ってことになるんだ。

江：何となく伊藤さんの言いたい事は分かりますよ。高い位置での受けという、ハリスのテンションで言えばギリギリの状態からのアタリなわけですから、その時のハリスの状態でもアタリの現れ方が違ってくる、と。

伊：その通り。

よくオレらの釣りって、江成君の言うように「エサの目方がかりきる前に釣ってしまう」から分かっていくって思われてるようだけど、江成君達の釣りよりよっぽど分かりやすいと思うんだよね(笑)。だって、「エサの方向性を示すサイン」がきちんと出るもの。それをオレらは「サワリ」と呼ぶわけ。確かに一般的なナジませ釣りよりもアタリの出るタイミングは早いで「速攻」と呼ばれたり、ガンガン寄せちゃう強引な特別な釣り(笑)って捉えられられてるのかもしれないんだけど、それは違うんだよ。それに、「速攻」って「基本」があつて初めて使われる言葉でしょう？ でもオレ的にはこの釣りそのものが「基本」というか「基準」なんだよ。

江：待ってました！ そのところを聞きたかったわけですよ。さっきから僕の釣りの話ばかりで(笑)。伊藤さんの言う「サワリ」ってやつをじっくりと聞かせて下さい！

伊：その前に、江成君がオレらの釣りを勉強したいと思った理由を聞かせて欲しいな。

「ナジませでどうするの？」

江：今では、ナジませたつてアタリなんか出ない、と思うからですね。

伊：でしよう！ やっぱ俺らは間違つてなかったのか(笑)。

江：えっ？ 伊藤さんともあるう人が、僕なんかで確認しなくたっていいじゃないですか？

伊：いやいや、この10年の間にね、色々言われたいわけですよ(笑)。なんてたつたつて時代の流れに逆らうつてのはね、それはそれは大変な選択なんです。江成君の短バリスと同じでね(笑)。

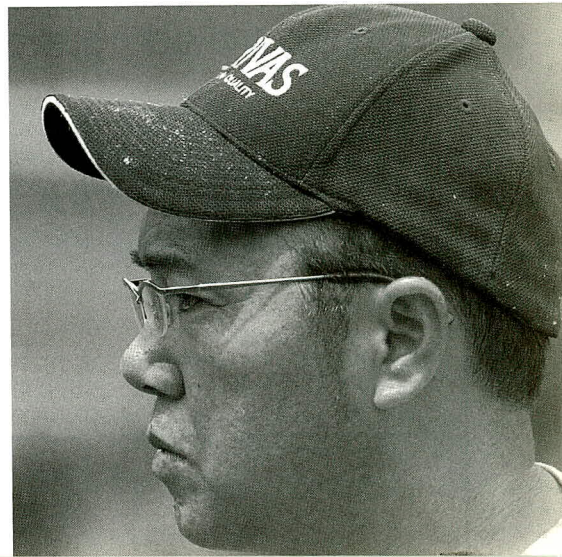
江：うーん、でも僕は10年前の伊藤さんにはきつぱりと言つて欲しかったですね。「ナジませでどうするの？」と。そしたら「何言つてやがる！」という反応はしたかもしれない(笑)、とりあえずは考えてみた苦なんですよ(笑)。そうすればこんなに遠回りしなくて済んだんです。

伊：それは言えなかつたよ(笑)。江成君と違つてオレ、控えめな性格だからね(笑)。自分の釣りを理解してくれる人が現れるまでじつと待つタイプなの(笑)。

江：マジですか(笑)。それはまあ置いとくとして、でも言いますか、「ナジませ至上主義」がもてはやされていた時代を、伊藤さんはどう捉えてるんですか？ 今となっては？

伊：うーん、どうなんだろうねえ。結局、魚が今より圧倒的に濃かつたつて事に尽きるんじゃないのかな。エサをぶら下げておいてもアタつてくれるつてことは、上からも下からもタナへのへの補給があるつてことだからね。

江：とくに下からの補給があるつて、実はものすごく釣りが易くなるんですよ。完全に食いに来たへらである事が多いんで、アタリもダイナミックだし、カラツンも少ない気がします。そんなにがつついたへらには持ち過ぎも関係ないです(笑)。



係ないです(笑)。

一定の位置までナジませる事が出来るという事が、ある程度タナを作るといふ事になった時代だったわけですよ。追わせるつていう要素がまるつきりなかつたわけではないんですけど、完全に魚まかせでもなんとかがカタチになった時代だった、と…。だからナジませる事さえ出来れば、釣りは易しかつたと言えるのかも知れませんね、釣果は別として。

結婚前はよく女房を釣りに連れてつたんですけど、とりあえず大きめのウキと重めのエサを与えておけば、一日中ボツボツと楽しんでたみたいですよ(笑)。結婚してからはあまり連れていけなかつたんですけど、最後に連れていった時には、そんなじゃもうダメでした。初心者に釣らせてあげようと思えば、付きつきりで面倒見あげないと釣れるような時代じゃなくなつたなと思ひました。伊藤さんの言うように、「アタリ」で釣れなくなつたつたんです。子供が出来る前だから、3、4年くらい前になりますか？ っていうか、その頃は自分の釣りの修正に必死で、面倒見る余裕なんか全くなかつたんです(笑)。

伊：ハハハ。でも10年位前だと、その「ナジませる」つてこと自体が難しいつて言われてたんだよね。グチャグチャのへらの中で、寝ウキになつちやつたり、ナジミが全く出せなかつたり

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1. ぐりへの釣会
2. ぐりへの釣会
3. ぐりへの釣会

- ・番付をインターネットで公開できます(無料)

お問い合わせご注文はお早めに!

取扱店: 柴舟 03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに 転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店:

- 柴舟 (東京都江戸川区)
03-3613-2727
佐伯釣具店 (神奈川県川崎市)
044-911-3722
SANSUI川づり館 (東京都渋谷区)
03-3499-5025
フィッシング中原 (神奈川県川崎市)
044-711-8266
鮎仙人 (神奈川県川崎市)
044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27 あとりえぐり

http://www.office27.com
E-mail: info@office27.com

。つまり、常にエサが持っていないという不安につきまわられる事になるわけだ。だからいっそのこと、ドーンとナジませる事さえ出来れば、少なくとも「エサが付いていないんじゃないか?」という不安からは解放される、と。魚に探られての「うそナジミ」は別としてね。そういうことでしょうか?

江: そうだと思えますね。僕らの場合、極端に短いハリスやバ力でかいウキを使う事で、ナジませるって部分はあっさりクリアしちゃったんですけれど。やっぱり一般的には難しかったんだらうと思います。仕掛けのバランスを疑うっていう人が少なかつた時代だったのかもしれないね。実際、ハリスを詰めるっていうのは多くの人が興味を持ってくれたんですけど、中途半端な詰め具合が一番良くない(笑)。かえってピンポンになっちゃうんですよね(笑)。なかなか分かってもらえなくて辛かったですね。

伊: ピンポンかあ。それが美は、俺にとっては大事なことだ(笑)。結局ナジませてエサが持っている事は確認できたとしても、その先が見えないんだよね。エサを合わせる方向性が全くあ、とてもスマートな釣り方とは呼べないじゃない? 理詰めを自称する江成君としては当時、上からのサワリってのはどういうふうに捉えてたわけ?

江: 一番は、へらが元々のタナにいるのか

て事ですね。いくら半自動的にタナが作れてしまいう時代だったといってもですよ、当時だって「無理タナ」って言葉はあつたわけですし、僕らの短いハリスではやはり追いつけない事からタナが作れないっていうケースは多かつたんですよ。狙ったタナよりやや上だなっていう位置でのサワリに関しては、へらの量や活性のパロメーターって捉えてました。ナジんでから全くアタリが出ないケースを除いて、そんなにウワズリは意識しなかつたです。

伊: そのサワリの中から、エサの方向性のピンとつてのは掴もうとしなかつたの?

江: そうですね、ウキの動きが悪くなつた時に、ちよつとエサをいじってみるじゃないですか。ボソッ気を出すとかが軟らかくしてみるとか。その後の一投のナジミ際に出るサワリっていうのは注視しましたね。どんな反応をするのか、と。これが、極端なケースでは「やっばり、へらはいたよ」という感想になるんですけど(笑)。そう感じる事が出来るまでセッティングを突き詰めちゃうんで、よく北城さんに怒られましたね。「江成君の釣りはアソビがなさ過ぎるよ」って(笑)。

伊: そりゃ究極だ(笑)。オレには考えられない世界だよ(笑)。面白い!

江: いやあ、どういうリアクションをすればいいんでしょう(笑)。でも伊藤さん、アレですよ。言い訳しときますけど、そんな状況になつてもぶら下げればかりいたわけじゃないです

よ。僕らだって流れれば流る程、高い位置からの一発取りになることが多かつたですから。もちろん小エサで。ハリスも伸ばしますしね(笑)。伊: でもエサの方向性は、動で行き当たりばつたり(笑)。

江: ぐ: そう言われるとキツイですが(笑)、伊藤さんの言うように、完全なナジませ釣りでカラツンの原因の基本(?)は持ち過ぎですから、まず一段アマクして(開かせて)みて反応を見るのがセオリーなんじゃないかね。ナジミ幅は減つていきますね。一段アマクといつても、軟らかくする方向とボソッ気を増す方向とで二つ試さなければならぬんですけど。それで反応が弱くならない程度粒子を散らしても遠巻きにはならないという判断ですね。どんどんアマクしていきます。その過程で、たいがいどつちの方向で開かせた方がいいのかっていうのが見えてくる善なんです。ゴールは「ナジんで間髪入れずにドーン」コレです(笑)。理想は「速攻のナジませ釣り」ですから、少なくともエサ落ち目盛は過ぎてからのアタリを取るようにするのが一般的ですね。「ナジませ」の大義名分は、タナの安定とウワズリ防止ですからね。ある意味、呪縛ですが(笑)。まあ当時としてはこれが「普通」のエサ合わせだったんだらうと思います。

反応が弱い時は、しつかりに進むってわけですね。余分な粒子を散らさずに、肝心のエサの芯にアタらせるっていうのが目的なわけですよ。

からね。逆に「持つか持たないか」っていう程のアマさへ進む時は、しつかりめではカラツンでしかないケースでしょう。活性の高い、いいへらだけを相手にするっていうイメージですが(笑)、結構ベースが上がっちゃたりするケースが多いんですよ。「なんだ、結局寄せが足りなかつたのかよ!」なんて、いえ、それだけじゃない筈だとは分かりました。自分達の釣りに限界が見え出したと感じましたね。それからしばらくしてからですかねえ、ムクトップのウキが流行り出したのは。まだメディアで取り上げられてはいなかつたんですけど、関西方面のトーナメント達がみんな研究しているぞっていう情報を掴みまして、「ナジミ際のアタリを追うにはムクだ!」という方向へ走つてしまつたんです。

以下、次号に続く!

と、今月はここでおしまひ!

今月は前振りどおり、「イントロダクション」的なもので終わってしまったが、来月からは、いよいよ江成が「伊藤洋一 釣りの両ダンゴ理論」の核心へとズズイと迫っていく。

その長い原稿は既に手元にあるが、はつきし言つて、ヤバイですよ、コレ。

全国の伊藤洋一信者のおみなさん、来月からの展開をどうぞお楽しみに!

by 里ちゃん

へら鮎

Monthly fishing magazine herabuna

No.453
Sep. 2003 9

特集

本誌が誇る不世出の万能神が、
野釣りトーナメントに贈る必釣エサ合わせ術!

小池忠教 深宙両ダンゴin豊英湖

スーパーアングラー 小池忠教の
エサ合わせ秘伝
SPECIAL

特別企画

ベストフィールド筑波白水湖で、
ペレ宙魔神がついに明かす、
驚愕ペレ宙理論...!!

中島上

ペレ宙の真実 **前編**

夏も面白い巨べらフィールド完全解剖! **特集II**

亀山湖

スーパーガイド
PART II

新連載

竹竿ファン必見!
紀州の伝統を守り抜く男達

竹とともに生きる。

新連載

ついに...スーパーチャンプ、降臨!!
彼は何を考え、何を実行しているのか。

岡田 清

ディープサイドアングル

【Deep Side Angle】



好評連載!
未開の釣り場 釣行記
鮎探偵団

野釣り万歳!

坂下ダムは野べら天国!!

ペレット対応。

今やヘラ釣りに、はずせない存在となっているペレットのエサ。
 そのペレットとのブレンドにお薦めなのが、「軽魅」と「もしり」です。
 しっかりと、柔らかめのエサには「軽魅」が、ボソ感を出したいときには「もしり」が、非常に有効なのです。
 もちろん、2つ合わせてのブレンドもOK。
 ペレットの釣りには手放せない、頼れる2つの魅エサです。



ボソ

しとり

を活かすなら

仕上げるなら

「もしり」の特長は、ボソ感とバラケ性。ペレットのエサとブレンドすれば、ボソのタッチをしっかりと出せ、ボソが活きたエサを好む大型に威力を発揮します。また、バラケ性にも優れ、エサをいじってもそのバラケ性は維持。魚の舌りをキープします。粒子が細かめなので、ペレットとのなじみもスムーズです。

●もしり ¥650 チャック袋

軽さとまとまり感が特長の「軽魅」。ペレットに加えることで、ペレット特有の重さを軽減。加える量によって、テジむ途中のウケ、サワリをコントロールすることが可能です。また、エサを柔らかく、しっかりとしたタッチで使ったときは、エサを持たせ、芯残りさせてくれます。

●軽魅 ¥650 チャック袋

昭和41年5月4日第3種郵便物認可
 平成15年9月1日発行

定価 1000円 本体九五二円

つれるエサづくり一筋
丸マルキュー

本社・桶川工場 埼玉県桶川市赤堀2-4 〒363-8509
 TEL: (048) 728-0909(代) FAX: (048) 728-3909
 大阪支店 大阪府寝屋川市楠根南町12-14 〒572-0811
 TEL: (072) 824-0909(代) FAX: (072) 825-0909

四国営業所 香川県坂出市西大浜北3-4-33 〒762-0053
 TEL: (0877) 44-0909(代) FAX: (0877) 44-3909
 九州営業所 佐賀県鳥栖市姫方町341-8 〒841-0023
 TEL: (0942) 82-0909(代) FAX: (0942) 83-0909

<http://www.marukyu.com/> 釣り場でエサに困ったらiモード・ホームページ <http://www.marukyu.com/i>

